

大崎上島町地域公共交通計画(第2期)(案)に対する

パブリックコメント(意見募集)の実施結果

1 実施期間

令和8年1月30日(金)から令和8年2月19日(木)まで

2 パブリックコメント件数

計2件(提出者1人)

該当箇所	ご意見	回答
2.2 地域公共交通の現状、(5) 地域公共交通の利用状況 (P10) 2.3 地域公共交通維持のための負担額 (P13)	P10 図 2.9 バス等の利用者数の推移、P13 図 2.11 本町の地域公共交通関連負担金について デマンド型本格運用となり、利用者が増えているものの、交通維持のための負担金も増えている結果になっているのですが、どのくらいの利益をあげれば負担金の維持、減少につながるのでしょうか。(100円、200円という運賃で運用できるのでしょうか。)	おと姫バスは、デマンド型の運行開始や、台数の増加により、利便性が大幅に高まったと認識していますが、その分経費も上がっており、収支率は低い状況です。しかしながら、高齢化が進む中、町民生活を守るために、町内において利便性の高い移動サービスが必要と考えており、デマンド型導入と合わせて、利用が少なかった定時定路線のおと姫バス廃止や、高速船休止などを進め、町の交通体系をトータルで考え、負担金の抑制をめざしています。 引き続き、利用状況などを踏まえ、地域公共交通サービスの効率化を検討します。
2.3 地域公共交通維持のための負担額 (P13)	負担金の内訳はどうなっているのでしょうか。	令和6年度における負担金は16,954万円であり、うち陸上交通が6,918万円、海上交通が10,035万円です。 令和7年度の負担金については、高速船の運休に伴い、海上交通分を中心に前年度より縮小する可能性があると考えています。

大崎上島町地域公共交通計画(第2期)(案)に対する

第49回大崎上島町公共交通連携協議会での意見対応

該当箇所	修正等を要するご意見	対応(案)
5.1 施策評価、 (1) 目標の評価指標 (P29) (2) 評価指標の目標 値、指標エ(P31)	目標を達成するための事業を挙げられていますが、その中の乗り継ぎ・待合環境の改善事例や、地域公共交通の利用促進事業については、実績などを評価指標に入れても良いのではないのでしょうか。	ご指摘のとおり、取組実績を評価指標に含めることは、事業を進める上で効果的であり、特に本町では、地域公共交通の確保や維持に向けて利用促進を図ることが重要と捉えていることから、「事業Ⅳ 地域公共交通利用促進事業」の評価指標として「町広報紙に地域公共交通情報を掲載した月数」を追加します。